スモンの現状

スモンに関する調査研究班では、

恒久対策の一環として、右に示す

「スモン現状調査個人票」を用いて、

長年検診を続けています。

以降のスライドで、その結果をお示しします。

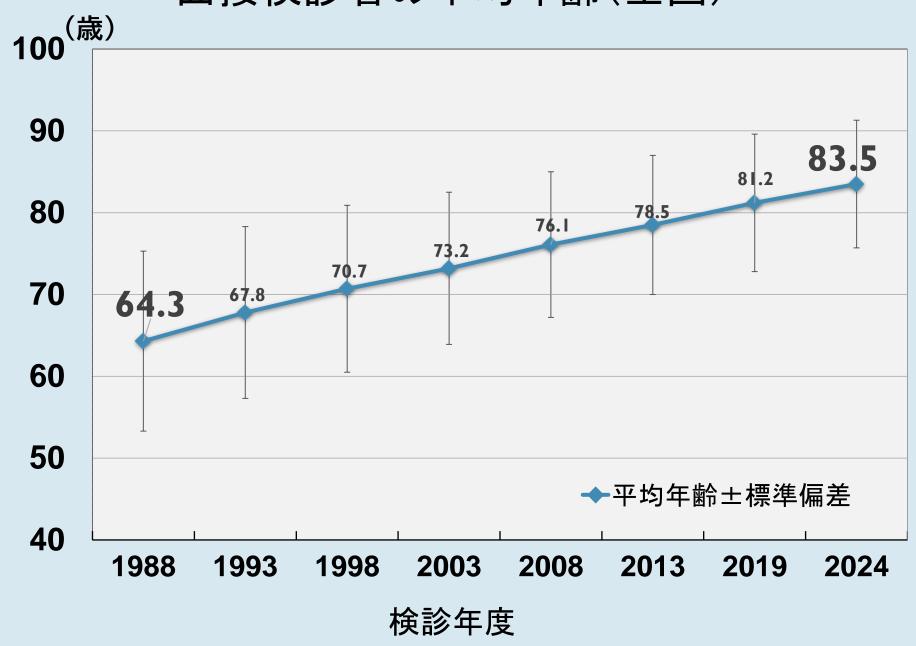
厚生	労 (働行難治	政推定	進調査 政策研	查個人 事業費補 究事業)	助金	性另			影響	· 在字。	問施設		不 明	県No.	個人No.
1ス	ŧ	ント	こ 関 3	「る調	查研究	址」		0 9	田中	歲月	r	病院	その他			
事	1		通常	の対面	による検	診	S.63 4	Ette 1	H.5 年度	H.10 年度	H 15.4	ERF I	1 20 年度	H 25 年	度 H.30 年	度 R.5年度
務	Н	雷影	_	よる問題			H.1 4		H.6 年度	H.11 年度		1	1.21 年度	H.26 年		
局		76211	-	による			H.2 4		H.7 年度	H.12 年度			1.22 年度	H.27年		
使用	П				者による	問診	H.3 £		H.8 年度	H.13 年度		1000000	1.23 年度	H.28 年		
幱	П		補助	者のみ	による問	診	H.4 £	F度 1	H.9 年度	H.14 年度	H.19 4	F度 I	1.24 年度	H.29 年	度 R.4年	度 R.9 年度
	<u>'</u>					_										
		が								男 M T		年	F	1	日生(歳)
患		者	名							女S						
住			所	₹								,	ΓEL			
診		察	В	R	4	¥	F]	日	診察	場所					
=A		nte	-tz	氏名				***	専門分	野:		j	所属:			
診	-	察	者													
		夕解		1 同5	まする:	口頭	こて了す	Kor	翌夕				代理人		2 同	意しない
•	発	表	E					•(100.00.100)					(続柄	:) 2. [1].	
				1. 当	2. 要介別より入	、院継組		当初	歩き 入院(4. 松葉杖 年間)		本杖		安定独	步 7.1	常
				J. AJ	区院のく	9727	えし	4. 在5	宅療養力	4主体で				りずっ	と在宅療	養
n	ま	での			川練:1.						寺々入防	老 5			と在宅療	養
				機能						4主体で	寺々入防	老 5	. 当初よ		と在宅療	養
見る	ΞŒ	D身	運動	機能	川練: 1.	かなり	りやった	te 2	2.少しに	4主体で	寺々入院 3. ほ	老 5	. 当初よ			養
見 て	学	り身付	運動	機能	川練: 1. : 1. 不良	かなり	りやっz やや不J	た 2 良 3.	2.少しに ふつう	が主体で はやった	寺々入院 3. ほ	老 5	. 当初よ	ない	Ę	Ě
現在	Y 栄体食	0身(運動	機能! 養格	川練: 1. : 1. 不良 : 1. 高度	かな! ! 2. * ! やせ	りやっ7 やや不J 2. 軽L	た 2 良 3. 度やせ	2.少しに ふつう : 3.ふ	が主体で はやった 4. 良好	持々入院 3. ほ 肥満	老 5	. 当初よ	ない身長	Ę	Ě
現在	Y 栄体食	0身(運動	機能是養格欲	川練: 1. : 1. 不良 : 1. 高度 : 1. 高度	かな! 2. ** だ低下	りやった やや不」 2. 軽! 2. や・	た 2 良 3. 度やせ や低下	2.少しに ふつう : 3.ふ	*主体で はやった 4.良好 つう 4. つう 4.	持々入院 3. ほ 肥満	老 5	. 当初よ	ない身長	Ę	Č
現在	安栄体食睡	の身份	運動	機能養格欲眠	川練: 1. : 1. 不良 : 1. 高度 : 1. 高度 : 1. 常に	かな 2. * だ低下 に不 に不	りやった やや不」 2. 軽! 2. や・ 2. 時・	た 2 良 3. 良 を 低 下 で て 取	A.少しに ふつう 3.ふ 3.ふ 4 3.ふ	*主体で はやった 4.良好 つう 4. つう 4.	時々入院 3.ほ 肥満進眠	完 5	. 当初よ	ない身長	Ę	Ě
現在	安栄体食睡	の身份	運動	機能養格欲眠	川練: 1. : 1. 不良 : 1. 高度 : 1. 高度 : 1. 常に : 併発症	かなし 2. 世代 (1. オール・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・	りやった やや不」 2. 軽! 2. 時。 なし 2	た 2 良 変 低 不 あ り か .	A.少しに ふつう 3.ふ 3.ふ (白内	*主体で はやった 4. 良好 4. つう 4. つう 老眼	時々入修 3.ほ 肥満進眠その	完 5 とん。 他:	. 当初よ ビやって	ない 身長 体重	£ ()	よしは読め
現在	安栄体食睡	の身份	運動	機能養格欲眠力	川練: 1. : 1. 不良度 : 1. 高度度 : 1. 高度度 : 1. 常発を : 1. 新発を 6. 新聞	かなり、これでは、不は、これでは、不は、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	りやった。 や 不	た 良 変 他 不 あ 3. せ 下 眠 り 3. ん	2.少しに ふつうふ 3.ふ ら 自 前 能 と か 読 た の た れ い た り に り れ り れ り れ り れ り れ り れ り れ り れ り れ	ば主体で はやった 4. 良 4. 4. つううう 老 形 り10cm) 手読 があるが	寺 3. 満進眠そ弁に 下過,動に	た と 他 4. 眼 7	. 当初よ だやって 前指数 数 が ほ と が も の も の も り る り る り る り る り る り る り る り る り る り	ない 身長 体重 4 5. 第 に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	が関の大見	出しは読め
現在	在 栄体 食睡 視	の身份	運動	機能養格欲眠力	川練: 1. : 1. 不良度 : 1. 高度度 : 1. 高度度 : 1. 常発を : 1. 新発を 6. 新聞	かなり、これでは、不は、これでは、不は、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	りやった。 や 不	た 良 変 他 不 あ 3. せ 下 眠 り 3. ん	2.少しに ふつうふ 3.ふ ら 自 前 能 と か 読 た の た れ い た り に り れ り れ り れ り れ り れ り れ り れ り れ り れ	ば主体で はやった 4. 良 4. 4. つううう 老 形 り10cm) 手読 があるが	寺 3. 満進眠そ弁に 下過,動に	た と 他 4. 眼 7	. 当初よ だやって 前指数 数 が ほ と が も の も の も り る り る り る り る り る り る り る り る り る り	ない 身長 体重 4 5. 第 に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	が関の大見	
現在	在 栄体 食睡 視	の身份	運動	機能養格欲眠力	川練: 1. : 1. 不,高,高,常, 注: 1. 优,全, 音, 是,	かな 2. 世 (りやった 2. 軽 2. 中 2. 中 な 明 な 明 の よ に 所 に の に 所 に の に 所 に の に 。 に の に 。 に の に 。 に 。	た 良 度 り で は 不 あ る の 分 に の の に の の の の の の の の の の の の の	2.少しに うふふふ内(彩読) 歩 8.独外 8.独外 8.独外	3 主体で はやった 4. 良 4. 4. 4. 4. 日 つつうう。 老助 10cm) 読助 の が 3. まやや	寺 3. 満進眠を弁 c. 次 に 満進眠を弁 c. なった。	を と 他 4. 眼 7 りっ. かっ. かっ. かっ. つ	. 当初よ どやって 前指とと 歩う	ない 身長 本 ・ ・ ・ ・ を 正 に 行 器 な る に 行 器 る に の に の に の に の に の に の に の に の に の に	が関の大見	出しは読め
現	五 学体食睡視 歩	の身份	運動	機足養格欲眠力行	川練: 1. : 1. 不高度: 1. 高度: 1. 高度: 1. 高度: 1. 常発全置: 1. 不独生: 1. 不知	か 2. 世 (りやった。 2. 軽E 2. や時。 2. も時。 2. も時。 な明的子(1)	た 良 度 り は で は 不 あ る 分 定 に の の に の の に の の の の の の の の の の の の の	2.少しに う	3 主体で 4. はやった 4. り4. 4. 4. は つつうう 老り10cm) が3. 要やや→ ものかるがか助不	持々3. 肥亢過,動み4定 な10mm	た 5 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	. 当初よて 前指とと 数 が は と も う 最 大 歩	ない 身長重 子 5. 兼常 行器な	を う 所聞の大見 ど) 5. 松	出しは読め 葉杖 6. 一 分
現才	五学体食睡視 歩 外	D身份	本状況	機 養格欲眠力 行 出	川練: 1. : 1. 不高高度に 1. 高度度に 1. 高度度に 1. 一条金度に 1. 一条金度 1. 不独立 1. 不独立 1. 不独立 1. 不知 1.	かな 2. 世下眠 1. 世 (2. 世) 2. 世 (2. 世) 2. サ 2. カナ 2. カナ 2. カナ 2. カナ	りやった。 2. 軽やった。 2. 時では、 2. 時では、 2. は明かい春り不で可います。 かいでは、 1. はいかいでは、 1. はいかいでは、 1. はいかいがった。 1. はいかいがいがった。 1. はいかいがいがった。 1. はいかいがいがった。 1. はいかいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがい	た 良 変 や 低 不 あ る 分 を は の ま る の の の の の の の の の の の の の	2.少しに うふふふ内(終読) 歩のな 4.4~9な 1.4~9な	3 主体では 4 たい は	時々3. 満進眠そ弁に4.定mmで では、動みを10mmで 10mmでは、10m	た 5 6 6 4 いまふの 1 種力	. 当初よて 前。ほき、 数ん、歩う 最大歩で で可 4.	ない 身長	を が が が が が が が が が が が が が	出しは読め 葉杖 6. 一つ 分 5. 遠くま
現才	五学体食睡視 歩 外	D身份	運動	機 養格欲眠力 行 出	川練: 1. : 2. : 3. : 4. : 4. : 4. : 5. : 5. : 5. : 6. : 7. : 1. : 6. : 7. : 1. : 7. : 1. : 1.	か 2. 世下眠 1. 世 2. 加 車 1 の 2. カナ 介 2. カナ 介 2. カナ カ 3. カ	りやった。 2. 軽い 2. といり 2. といり 2. といり 2. といり 2. といり 2. といり 3. といり 4.	た 良度や々2.みも自安 可 3. せ下眠り3.んで 3.3.	2.少しに うふふふ内(総読) 歩のなで は 様名~9なで	は 本体でで 4.0 インス 4.0	時々3. 満進眠で弁に3. 満進眠で弁に4.定 10mmで 4. 10mm	た 5 6 6 4 いまふの 1 種力	. 当初よて 前。ほき、 数ん、歩う 最大歩で で可 4.	ない 身長	を う 所聞の大見 ど) 5. 松	出しは読め 葉杖 6. 一つ 分 5. 遠くま
現在	正学体食睡視 歩 外起	D身份	立 立	機 養格欲眠力	川練: 1.	か 2. せ下眠 . だ	りやった。 2. を明かりでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	た 良 度 り な の は で は で は の は の は の は の は の の は の は の の の の の の の の の の の の の	2. 少 い 3. 3. 4 (眼と操 8. 4~9 人 4 (東と操 8. 4~9 なで 9 なで 9 と 4 (東 8. 4~9 な 7 と 9 と 4 (東 8. 4~9 な 7 と 9 と 9 と 9 と 9 と 9 と 9 と 9 と 9 と 9 と	3 主体ででは、 4.5 ものでは、 4.5 ものでは、 4.4 ものでは、 4.5 ものでは、 4.4	時々3. 満進眠で弁に3. 満進眠で弁に4.定 10mmで 4. 10mm	た 5 6 6 4 いまふの 1 種力	. 当初よて 前。ほき、 数ん、歩う 最大歩で で可 4.	ない 身長	を が が が が が が が が が が が が が	出しは読め 葉杖 6. 一つ 分 5. 遠くま
見 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	正学体食睡視 歩 外起 下	D身 ⁽	連動 本状況 立	機己 医格欲眠力 行 出位 下		かな 2. 世 低不 1. 世 低不 1. 世 で で で で で で で で で で で で り こ り こ り こ り こ	りやった。 2. を明かしない。 2. しいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、	た 良度や々2.みも自安 可ある。 の の の の の の の の の の の の の	2.少 ふ 3.3 白前か作独のなでとり 3.3 白前が作独のなで多く 4~9 名 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	3 主体 4. 4. 4. 3. 7. 6. 6. 4. 4. 4. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7.	時々3. 満進眠で弁に3. 満進眠で弁に4.定 10mmで 4. 10mm	た 5 6 6 4 いまふの 1 種力	. 当初よて 前にまき 数ん、歩う 最大歩で 4.	ない 身長	を が が が が が が が が が が が が が	出しは読め 葉杖 6. 一つ 分 5. 遠くま
現 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	正学体食睡視 歩 外起 下下	b 別	立 方極	機己 医管性性 医电子性 医电子性 医电子性 医电子性 医电子性 医电子性 医电子性 医电		かな し 2. 世下 に 2. 世下 に 1. 1 で 2. 世本 に 2. 日本 と 2. できる こ 2.	りやった。 2. や時 2. とは明か橋りです。 2. し暗い橋りです。 2. し暗い春りです。 です。 1. 度度	た 良変や々.2.みも自安	2.少 ふ 3.3 ら前か作独のなでとり。 3.3 ら前が作独のなで多く。 4.4 を 4.4 を	3主体 4. 4. 4. 4. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	時々3. 満進眠で弁に3. 満進眠で弁に4.定 10mmで 4. 10mm	た 5 6 6 4 いまふの 1 種力	. 当初よて 前にまき 数ん、歩う 最大歩で 4.	ない 身長	を が が が が が が が が が が が が が	出しは読め 葉杖 6. 一つ 分 5. 遠くま
現	正学体食睡視 歩 外起 下下下	D身 肢 肢	立	機己 医多格 医多种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二种 医二		かな	りやった。 2. は明か様り 2. し暗い橋り です: 1. 度度度	た 良変や々.2.みも自安	2. ふ 3.3.3.白前か作独〜9子人多度度度	3 主や 4 つつつつ障が10を対し、 4 くりょう 4 くりょう 5 でた 良 4 くりょう 5 でた 段 4 くりゅう 4 を 4 を 4 を 4 を 4 を 4 を 4 を 5 を 5 を 5 を	時々3. 満進眠で弁に3. 満進眠で弁に4.定 10mmで 4. 10mm	たと 他 4.いか9. amp かのカでド	. 当初よて 前にまき 数ん、歩う 最大歩で 4.	ない 身長重年 5. 兼常な 万速 なっち で 5. 一	が が が が が が が が が が が が が が	出しは読め 葉杖 6. 一: 分 5. 遠くま 位で可
現る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	正学体食睡視 歩 外起 下下下上	D身 肢 肢 肢 肢 肢 肢 肢 肢 b	連載 立 防 節 動	機己 医蜂草	川練: 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	かな	りやって 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 3 3 3 3	た 良変や々 みも自安 可あ3.3. せ下眠り3.んで 耳あ3.3. 軽軽軽	2. 少 か 3. 3. 4 (眼と操 8. 4 ~ 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	3主や 4.うううう。 と聞いるなな」 4.4.4.眼手読助不 用可 3 というがある。これを開かななな」 4.4.4.眼手読助不 用可 3	等 3. 満進眠そ弁に 4. 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	たとん。 ・ 眼 7 り、 ・ 眼 7 り、 ・ の力で を 左	. 当初よて 前指はきう 最大歩行 4. 可	ない 身長重 たっこう 発常な 方 正器 度 なっこう 大 変	(低下, **	出しは読め 葉杖 6. 一 分 5. 遠くま 位で可
現る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	正学体食睡視 歩 外起 下下下上	D身 肢 肢 肢 肢 肢 肢 肢 肢 b	連載 立 防 節 動	機己 医蜂草	川線: 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	か な 2. 世下眠 1. 世代低不 1. 1 1 2. 1 2. 1 2. 1 2. 1 2. 1 2. 1 2	りや や 2. 2. 2. 2. 2. 3. 2. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3.	た 良変や々みも自安	2. 少しに うふふふ内 (議 と 操 8. 4~9 人 8 人 8 人 8 人 8 人 8 人 8 人 8 人 8 人 8 人	3 まや 4.ううう が 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4.	中 3.満進眠 そ弁に 4.5大人ほ満進眠 そ弁に 4.5大日満進眠 それに 4.5本日4.0ままれた4.0ままれた3.	たと	. 当初って 前1. まっ かっ が が が が が が が が が が が が が が が が が が	ない 身	を が聞の大見 ど) 5. 松 ら一人で可 人で継足 低下、ギ	出しは読め 葉杖 6. 一: 分 5. 遠くま 位で可
現 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	正学体食睡視 歩 外起 下下下上	D身 肢 肢 肢 肢 肢 肢 肢 肢 b	連載 立 防 節 動	機己 医蜂草	川線: 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	か L や低不 L 1 世 2 世 7 世 7 世 7 世 7 世 7 世 7 世 7 世 7 世 7	り や 2.2 に関いが極な トンサーキャン・ 不軽や時 2.2 に関いが極な トンサーキャン・ 不軽や時 2.6 でで1.1 度度度 (以1.1)	た 良度や々みも自安	2. 少 ふ 3. 3. 3. 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	3 まや 4.うううう でた 良 4.4.4 ほうううう できりののですのです。 その 3 こも が開め ななな J 臍・中で 好 4.4.4 眼) 読め不 用可 3 下度	特 3 . 満進眠 の 4 . と 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 . 1 .	他 4.いか9.重雑人 ・眼 7り。の力で 上い軽度	. 当初って 前. 歩っ最大 が指ほききの最大 で用脚でで 1 以低下 4. 可	ない 身体	を が が が が が が が が が が が が が	出しは読め 葉杖 6. 一 分 5. 遠くま 位で可
現	正学体食睡視 歩 外起 下下下上	D身 肢 肢 肢 肢 肢 肢 肢 肢 b	連載 立 防 節 動	機己 医蜂草	## : 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	か L や低不 II 1 2 mm 2 cm 2 cm 1 cm 2 cm 2 cm 2 cm 2	りや2.2、時になる。 かきく かって 不軽い時に の字(1不) ででは、皮皮皮皮の字(1不) ででは、皮皮皮皮皮の字(1不) ででは、皮皮皮皮の字(1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、	た 良変や々 2.み も自安 可あ 3. 4上高高 た 良変や々 2.み も自安 可あ 3. 9 軽軽軽 1. 2. 2. 2. 3. 9 軽軽軽 1. 2. 2. 2. 3. 9 軽軽軽 1. 2. 2. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3.	2.少 ふ 3.3. 公内 解 2. と は 1 3. 3. 公内 解 2. と は 1 3. 3. 公内 解 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3.	3 まや 4.0つつつ障け0を3 : もど開かななな / 臍中中でた 段 4.4 4.眼月読助不 用可 3 下度度	特3.満進眠そ弁に 4定m用大人の3.3.大下3.3.大下3.3.大下3.3.	他 4.いか9.重雑人 ・眼 7り。の力で 上い軽度	. 当初って 前. 歩っ最大 が指ほききの最大 で用脚でで 1 以低下 4. 可	ない 身体	を が が が が が が が が が が が が が	出しは読め 葉杖 6. 一 分 5. 遠くま 位で可
現	正学体食睡視 歩 外起 下下下上表	D身 肢 脱 肢 肢	立 本	機己 医脊髓管 医水子 医甲状腺 医二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲二甲甲		か 2. せ下眠 1. 2. 2. 2. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	りや2.2、5世が順待は、財友候等等等は乳覚覚性や、不軽や時にの字子不でです1.度度度 以1.1.1.	た 良変や々.こみも自安	2.少 ふ 3.3.3.白前 が読 2.9 は 4.4. 大 2.9 は 1.1 で 3.3.3.3.白前 か作 独 9.4 な 4.4. 大 2.9 は 1.1 で 3.4 に 5.2 に 5.4 に 5.2 に 5.4	3 まや 4.ううう がいます 4.ううう がいます 4.ううう がいます 4.ううう がいます 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4.	特3.満進眠そ弁に 4定m用大人の3.3.大下3.3.大下3.3.大下3.3.	他 4.いか9.重雑人 ・眼 7り。の力で 上い軽度	. 当初って 前. 歩っ最大 が指ほききの最大 で用脚でで 1 以低下 4. 可	ない 身体	を が が が が が が が が が が が が が	出しは読め 葉杖 6. 一 分 5. 遠くま 位で可
現る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	正学体食睡視 歩 外起 下下下上表 下	D身 肢 脱 肢 肢 在	立本 立 方 恋 新 重 党 動	機己 医脊髓管障 医脊髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨		か 2. 世下眠 1. # # 2. 2. 2. # # # # # # # # # # # # #	りや 2. 2 というでは、 おります では、 なりのない かりまな ・・ おります できる	た 良変や々.? みも自安 可あ3.3.3. 上高高あ3. た 良変や々.? みも自安 可あ3.3.3. 上高高あ3. は し度度り軽	2.少 ふ 3.3.ふ A.	3まや 4.ううう (1)のでた 良4.4.4.限1時かのです。 というのでは、4.4.4.限1時かのです。 は、4.4.4.限1時かのです。 は、4.4.4.限1時かのです。 は、4.4.4.限1時かのです。 は、4.4.4.限1時かのです。 は、4.4.4.限1時かのです。 は、4.4.4.限1時かのです。 は、4.4.4.限1時からです。 は、4.4.4.限1時からです。 は、4.4.4.限1時からです。 は、4.4.4.限1時からです。 は、4.4.4.限1時からです。 は、4.4.4.収1時からでは、4.4.4.収1時からでは、4.4.4.4.収1時からでは、4.4.4.収1時からでは、4.4.4.収1時からでは、4.4.4.収1時からでは、4.4.4.収1時からでは、4.4.4.収1時からでは、4.4.4.収1時からでは、4.4.4.収1時からでは、4.4.4.収1時からでは、4.4.4.4.収1時からでは、4.4.4.4.収1時からでは、4.4.4.4.収1時からでは、4.4.4.4.4.収1時からでは、4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.	特 3. 下 大人 3. 下 人の 3. 下 人の 3. 下 し と 3. 下 し と 3. 下 し し と 2. 下 し こ と 2. 下 し こ と 2. 下 し こ と 2. 下 と 3. 下 と<	きと 他4いか9.0種独人 上い軽軽度 から 1 世 1 世 1 世 1 世 1 世 1 世 1 世 1 世 1 世 1	. 当や	ない 身体	を が が が が が が が が が が が が が	出しは読め 葉杖 6. 一 分 5. 遠くま 位で可
現	正学体食睡視 歩 外起 下下下上表 下	D身 肢 脱 肢 肢 在	立本 立 方 恋 新 重 党 動	機己 医脊髓管障 医脊髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨	加 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1	か 2. せ下眠 1. 2. 細末 介 5 微	りや2.2、2.1 時の権は、助技候等等等ので、不軽や時にの字(イボーザ・1) 大阪度度 (以1.1.1 度度度) (以1.1.1 度度度)	た 良変や々.2 みも自安 可あ 3. 3、 1 上高高あ 3. 4 た 良変や々.2 みも自安 可あ 3. 3、 1 上高高あ 3. 4 た 良変や々.2 みも自安 可あ 3. 3、 1 上高高あ 3. 4 た 良変や々.2 みも自安 可あ 3. 3、 1 上高高あ 3. 4 た 良変や々.2 みも自安 可あ 3. 3、 1 上高高あ 3. 4 た 良変や々.2 みも自安 可あ 3. 3、 1 上高高あ 3. 4 た 良変や々.2 みも自安 可あ 3. 3、 1 上高高あ 3. 4 た し変や々.2 みも自安 可あ 3. 3、 1 上高高あ 3. 4	2.少 ふ 3.3.ふ内(#読) 歩のなで少4.4.4 握, 2 2 2 9 4 3.4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	3 まや 4.ううう (1) でた 良 4.4.4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4.	寿 3. 満進眠 4 定 10 世 4 と 3 まま 1 と 2 と 3 と 3 と 3 と 4 と 4 と 5 と 5 と 5 と 5 と 5 と 5 と 5 と 5	たと 他 4.いか 9. 戸藤独人 左い 軽軽 と ど に 取り 5. の力で	. 当や 前に歩う最で開脚 以低低 し 以低低 し	ない 身体重 を 5. 第常な を 5. 第常な 度な・	を が聞の大見 が問の大見 ど) 5. 松 ら一人で配足 低下、で 5. 足し 5. なし	出しは読め 葉杖 6. 一 分 5. 遠くま 位で可
現	正学体食睡視 歩 外起 下下下上表 下	D身 肢 脱 肢 肢 在	立本 立 方 恋 新 重 党 動	機己 医脊髓管障 医脊髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨	加 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1	か 2. せ下眠 1. 2. 細末 介 5 微 c 2. t c l l l l l l l l l l l l l l l l l l	りや2.2、は明か様な、助技候中中中は乳覚覚性専高島りや2.2、は明か様な、助技候中中中は乳覚覚性専高度で不軽や時2の字(不可で1度度度、以1.1.1度度	た 良度や々 2. みも自安 3. 3. 3. 3. 4. 高高あ 3. 中で は 3. 4. で す 3. 3. 9 軽軽軽 以度度り軽中度	2.少 ふ 3.3.3.3.4 白脚と横 8.4~4 人 4.4 人 2.度度度 1 下 5.4 、 3.3.3.3 白前か f 1 独 9 人 2 4.4 4.4 人 2 と 2 4 4 4 4 人 2 と 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	3まや 4.ううう がいます 4.うううう がっと 2. でた 良 4.4.4 につる要やの補脚りししし 石以等等り として 好 4.4.4 にり読助不 用可 3 下度度 3 4で で 5 4.4 に 1 で 4. し 1 で 5 で 4. し 1 で 5 で 6 で 7 で 7 で 8 で 7 で 8 で 8 で 8 で 8 で 8 で 8	特3.満進眠そのに4定断用ーします。3.大3.よ3.とはとはとはとはとは	に と に に に に に に に に に に に に に	. 当や 前に歩う最で削し 以低低 しのに丸 かんしゅ に丸 かんしゅ は しゅん は しゅん は れ かんしゅん は しゅん は れ かんしゅん は な な は れ かんしゅん は れ か れ か れ か は な れ か は な れ か れ か は な な れ な な な な な な な な な な な な な な な な	ない 身体重 5. 兼常な 作 と行 速ぐ 5. 第常な 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	(表) (表) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	出しは読め 業杖 6. 一次 分 5. 遠くま 位で可 ・や低下, 』 い以下 6. な
現	正学体食睡視 歩 外起 下下下上表 下	D身 肢 脱 肢 肢 在	立本 立 方 恋 新 重 党 動	機己 医脊髓管障 医脊髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨髓管 医骨	加 : 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	か 2. せ下眠 1. t = 1	り や 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2.	た 良度や々みも自安 可あ 3.3 上高高あ 3. 中 美	2.少 ふ 3.3.3.白前か作独9 4.4.大 2 2 2 4 4.3.0.1 2 2 2 4 4.4. 3 0 4 4.4. 3 0 4 4 4.4. 2 2 2 4 4 4.3. 0 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	3まや 4.ううう がいます 4.うううう がっと 2. でた 良 4.4.4 につる要やの補脚りししし 石以等等り として 好 4.4.4 にり読助不 用可 3 下度度 3 4で で 5 4.4 に 1 で 4. し 1 で 5 で 4. し 1 で 5 で 6 で 7 で 7 で 8 で 7 で 8 で 8 で 8 で 8 で 8 で 8	特 3. 満進眠そのよく72 m用・し そ3. 満進眠そのよく72 m用・し そ3.3 しとはり とはり とはり	たと 他 4 いか 9. 腫独人 左い軽度 どる 3.	. 当や 前に歩う 最で 間 おいま は しい は は しい は は しい じい は は い は い は い は い は い は い は い は い は	ない 身体重 ままな 皮 なー 単以敏敏 けびり は、過過敏 をん、	大 で が が が が が が が が が が が が が	出しは読め 葉杖 6. 一 分 5. 遠くま 位で可

全国のスモン患者数

(健康管理手当受給者数で推定)



面接検診者の平均年齢(全国)



面接検診者の平均年齢と年齢構成(全国)

年度 年齢 (歳)	1988 S63 (%)	1993 H5 (%)	1998 H10 (%)	2003 H15 (%)	2008 H20 (%)	2013 H25 (%)	2019 R1 (%)	2024 R6 (%)
0 - 49	10.1	5.4	2.4	0.9	0.4	0.3	0.0	0.0
50 - 64	40.2	34.6	22.9	16.4	9.1	5.9	2.5	1.8
65 - 74	32.0	35.4	38.2	38.7	30.8	23.7	18.7	9.7
75 - 84	15.8		28.0	31.2	42.5	45.4	42.5	43.2
85 -94	1.9	75以上 24.5	85以上 8.6	85以上 12.7	85以上 17.1	85以上 24.7	30.5	39.4
95以上							95以上 5.8	5.9
検診 総数 (名)	834	1107	1040	991	911	683	482	340

○√○一視力障害

①スモンの臨床症状の長期経過

腹部の障害(下痢・便秘など)

手の障害(しびれ感など)

排尿・排便の障害

歩行障害

- 典型例では、下肢の痙性麻痺と深部 覚障害による失調 歩行、異常感覚。
- 視覚障害もあり、 失明する症例も あった。

足の障害(しびれ感,冷感など)

スモン発症時の症状 (運動系,視力)

視力障害

- 運動機能の障害が約半数にみられる.
- 重症な患者は歩行不能.しかし、数ヶ月から数年以内に足の力が改善することも少なくない。

排尿・排便の障害

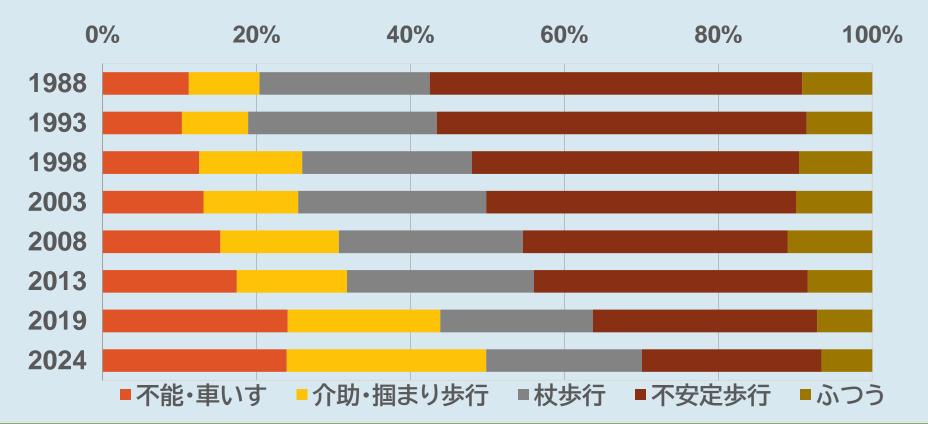
- ・発病当初は約6割の患者で視力が低下する.
- 全盲が約5%, 高度低下が20%であるが, 後に回復するものもある.

歩行障害

主要症状の長期経過(全国) (運動系)

発症時, 歩行不能は約6割を占めたが, その約30年後の時点では, そのまま歩行不能なのはそのうちの2割程度であり, 多くの患者で歩行能力は回復しているとされる.

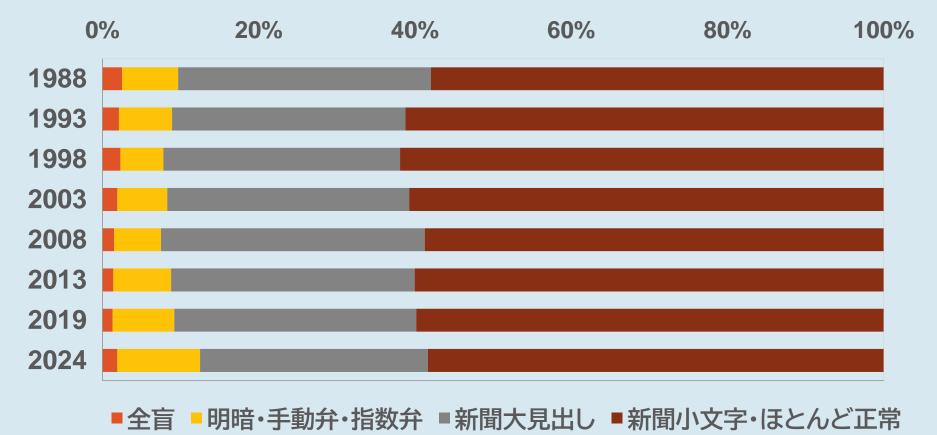
しかし、高齢化の影響もあり近年は徐々に歩行能力が低下.



主要症状の長期経過(全国) (視覚)

視覚に重い障害があった場合の回復は悪い。

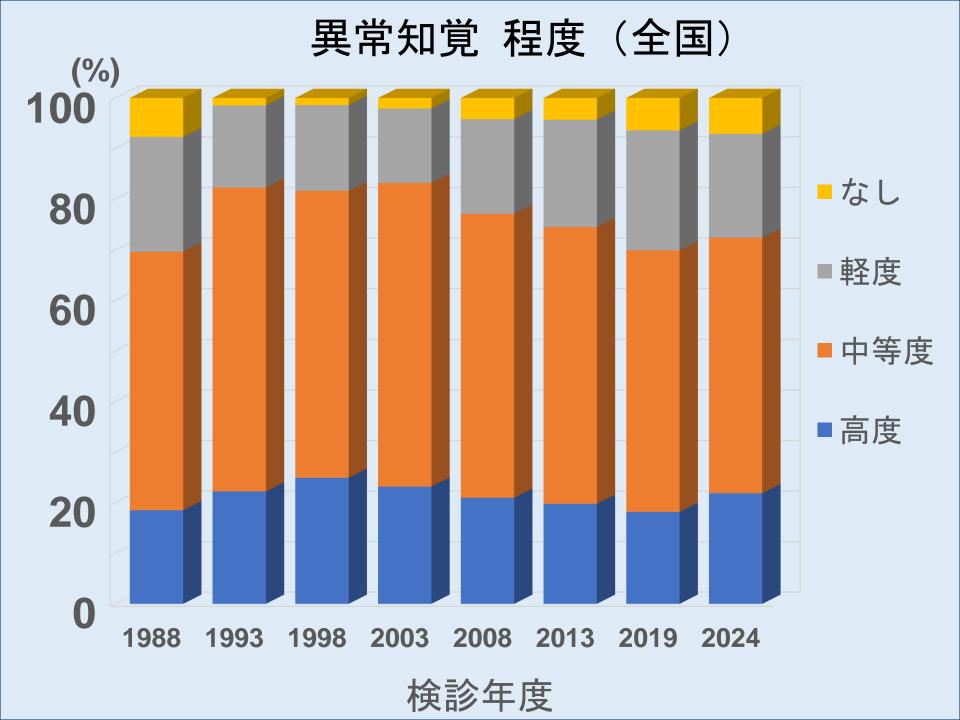
発症時全盲の人のうち、約30年後の時点で視力が軽度低下ないしは正常に回復したのは約5割であった。35%が全盲のまま、15%は回復しても高度の視力障害が残る。



スモン発症時の症状 (感覚系)

四肢遠位に 感覚障害が強い

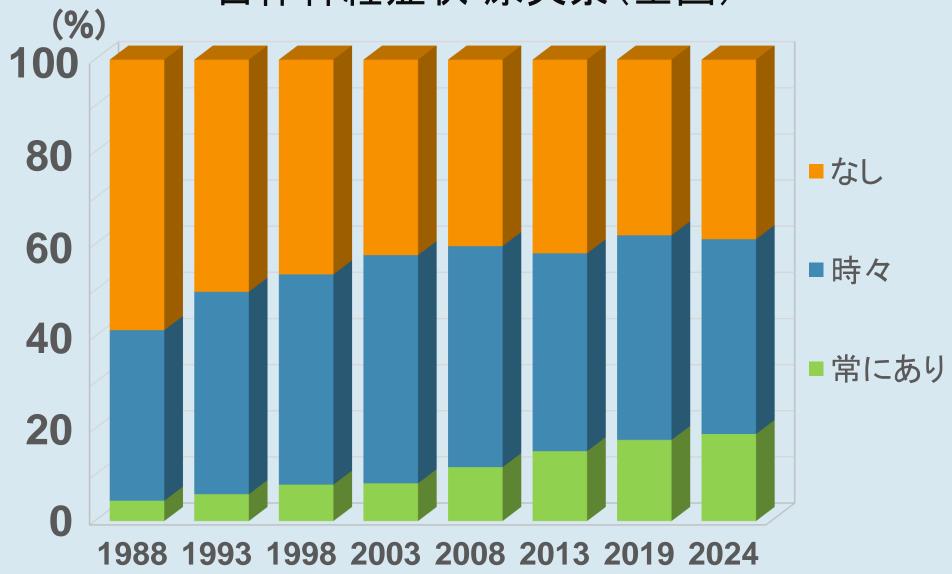
- •神経症状は、急性にあるいは亜急性に出現する.
- しびれ感が足先から始まって、足首、膝と上がっていく、鼠径部や、臍部あたりまでしびれる患者が多いが、胸部までしびれる患者もいる。
- しびれ感は、ビリビリする、ジンジンするなどの他に足の裏に何か貼りついたような感じがする、締め付けられるような感覚などがある。
- また、皮膚にふれられたときの感じが鈍いこともあるが、逆にひどく強く感じることや痛みを覚えること も多い。



主要症状の長期経過 (自律神経系)

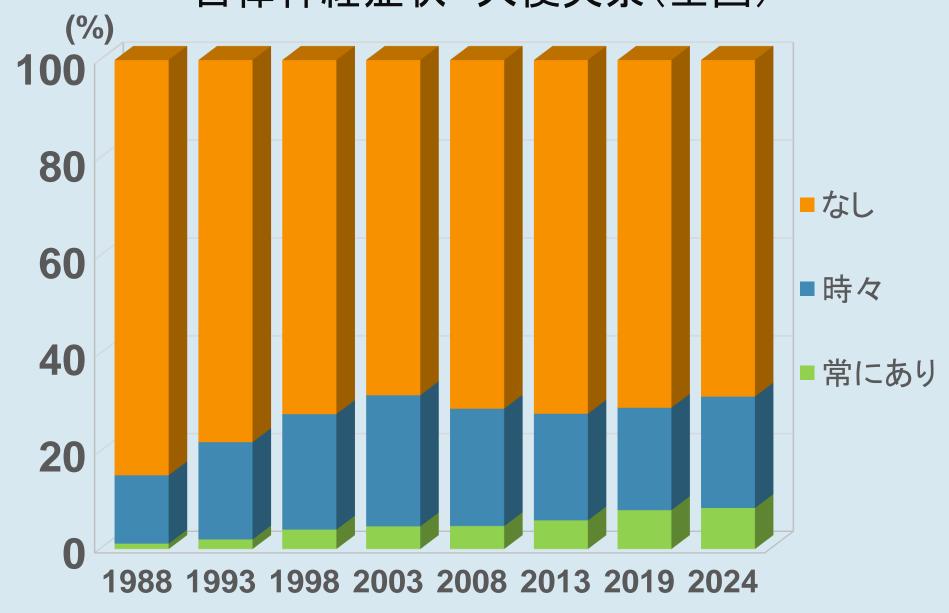
- 足の温度が低下していると感じる患者が約7割である。
- 尿失禁は、ときどきあるものを含めると6割近くの患者にみられる. 便失禁も、ときどきあるものを含めると3割近くにみられる.
- 下痢は2割,便秘は4割の患者にあり、下痢と便秘の交代も2割近くにみられている。
- ・スモン患者では、尿失禁の頻度は高い.特に女性 や高齢者、異常感覚が高度な患者に多い.神経障 害が存在する上に、加齢現象が加わるためと考え られる.

自律神経症状 尿失禁(全国)



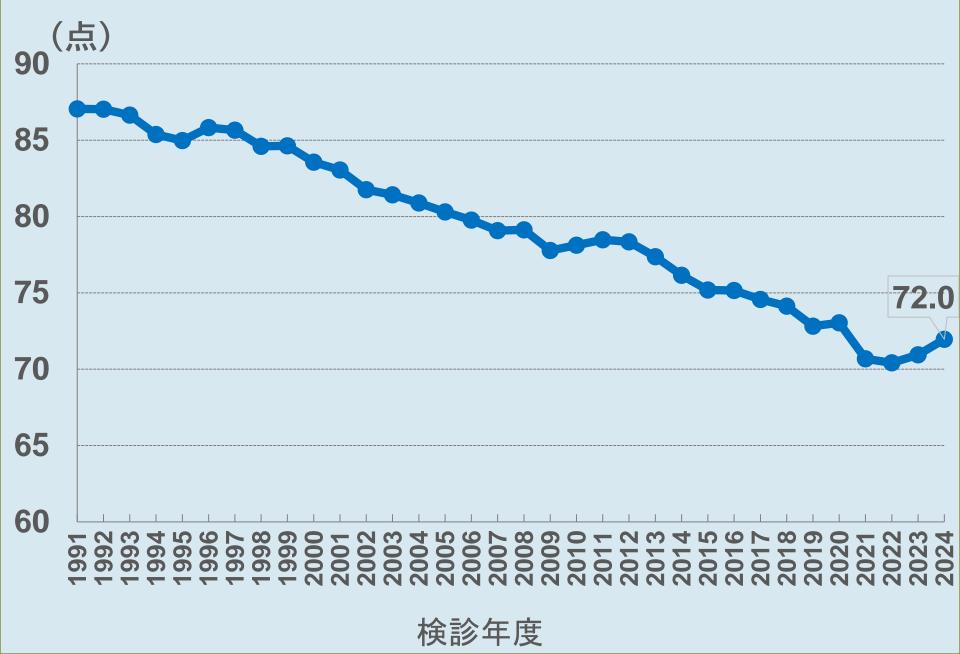
検診年度

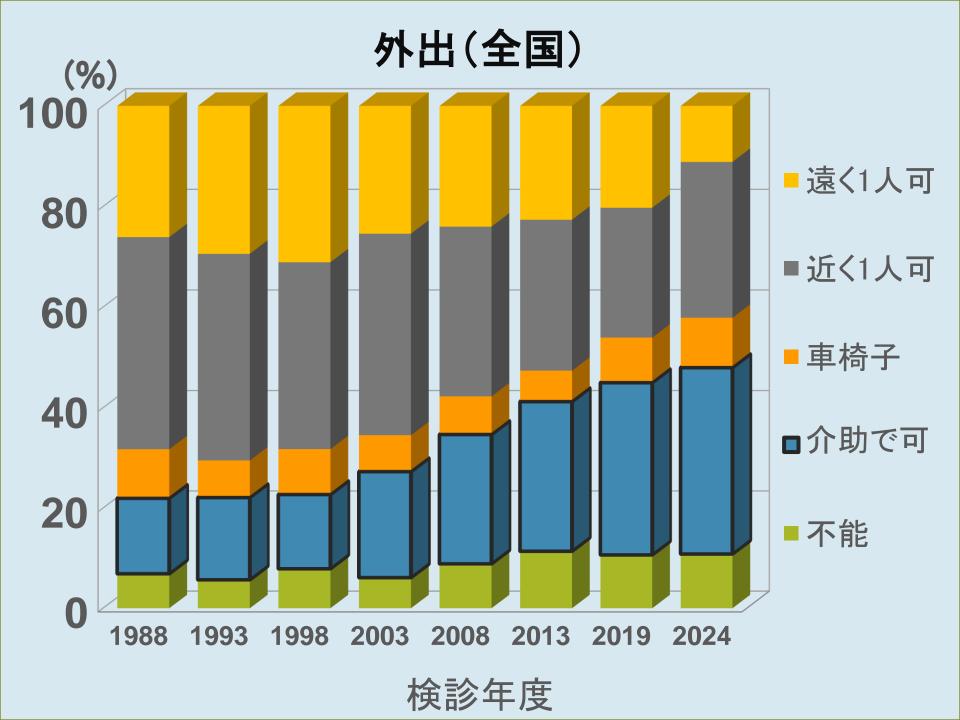
自律神経症状 大便失禁(全国)



検診年度

Barthel Index 平均值(全国)



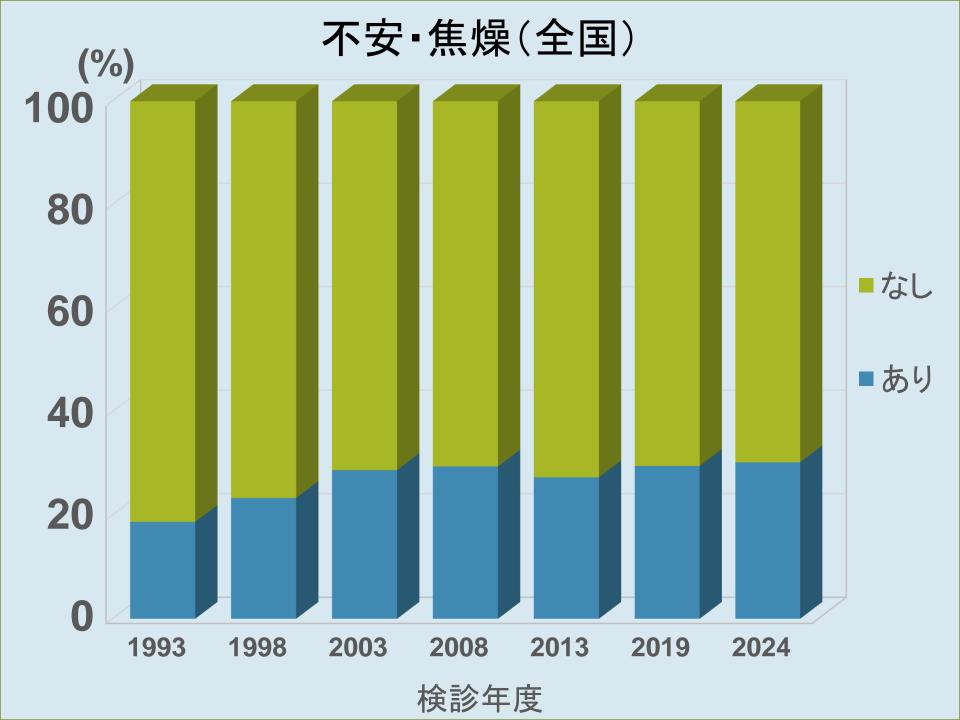


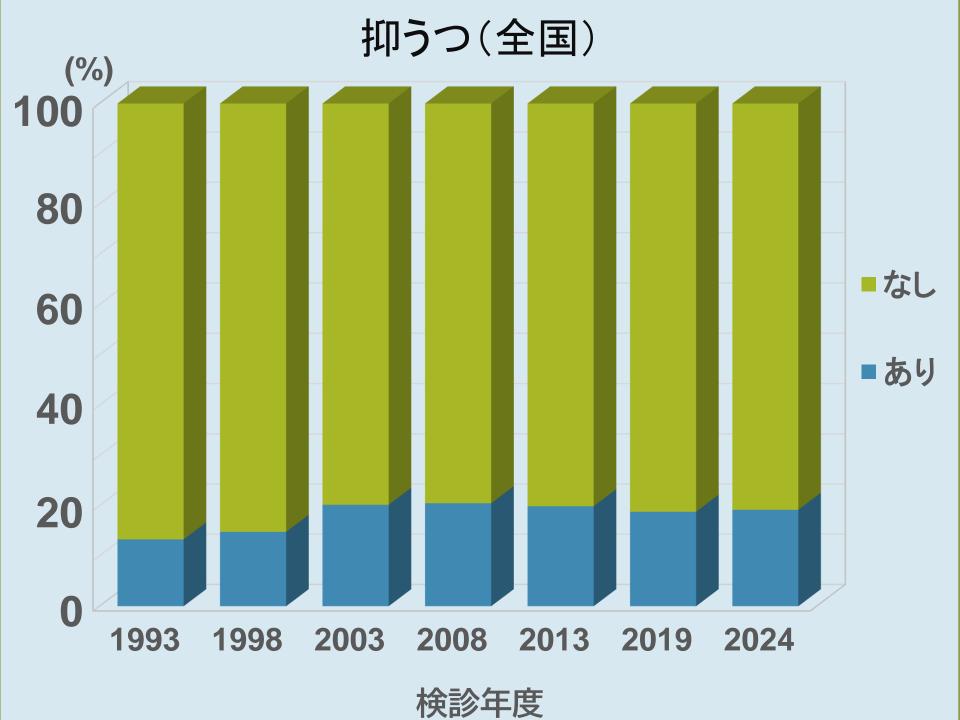
②高齢化に伴う問題 (介護、認知症、併発症)

- ・スモン検診で、現在の問題点として患者の7割程度は医学上の問題をあげているが、家族や介護の問題を4割の患者が挙げており、福祉サービスが問題とするものも2割程度いる。
- ・患者の家族形態や介護者の変化が目立ってきた。
- ・高齢者の問題として認知症が加わってきた。
- スモンだけでなく併発症による障害が目立ってきた。
- 医療だけでなく療養の問題の比重が高くなってきた。

精神症状と認知症

- スモン患者では、不安・焦燥や抑うつなどのこころの問題を抱えるものも多い。
- 認知症については、従来はスモン患者では少ないという報告もあったが、患者が高齢化するにつれ増えてきている。
- 2012年のスモンの全国調査では、認知機能のスクリーニングとしてMMSEをおこなった。この年の検査では9.9%の患者に認知症が疑われた。2016年のスモン検診では14.3%に認知症との報告もある。

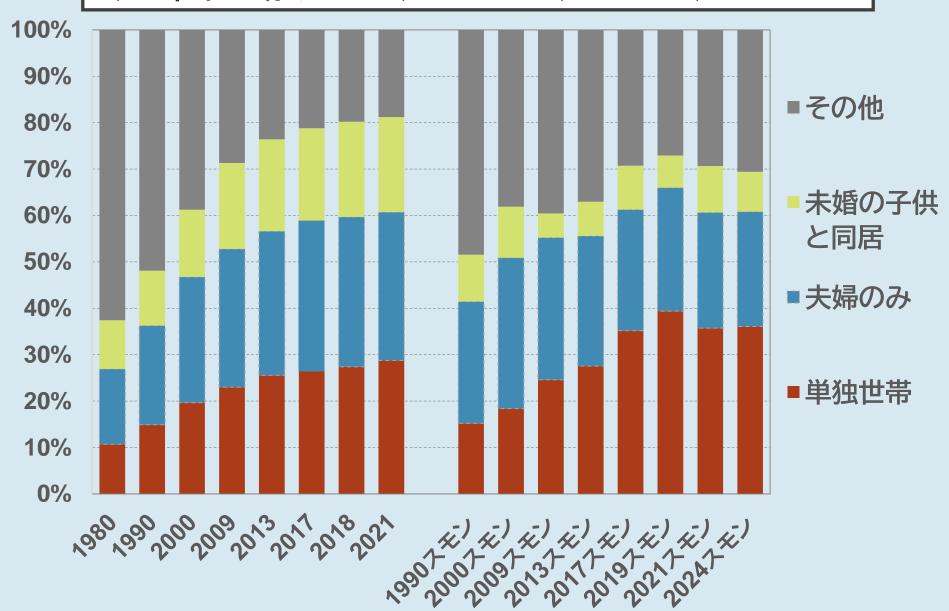




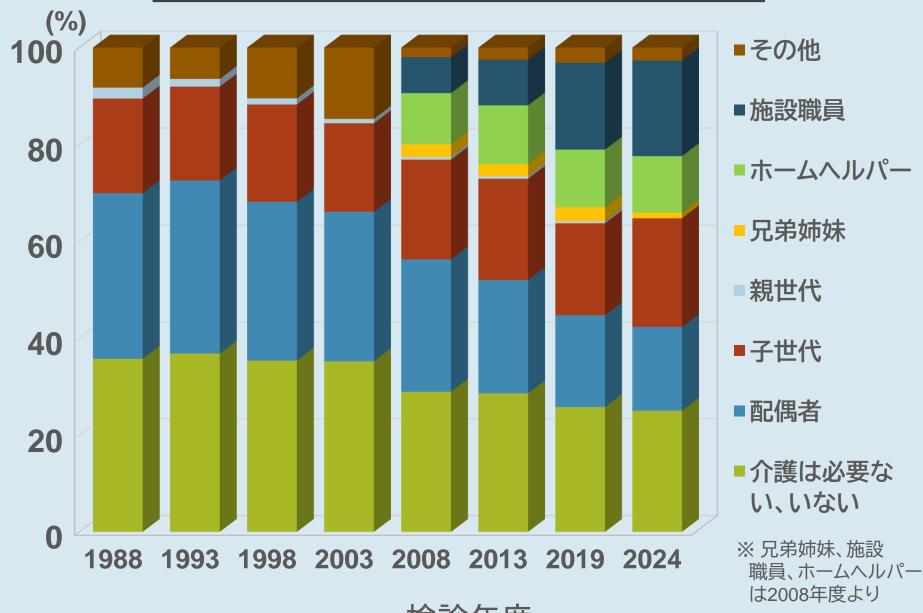
身体的併発症(全国)

. 左 中	併発率(%)						
疾患	1988年度	2019年度	2024年度				
白内障	30.5	68.2	72.8				
高血圧	32.5	55.2	55.7				
脳血管障害	5.3	11.9	11.1				
心疾患	21.3	26.4	27.3				
糖尿病	6.8	16.5	16.2				
呼吸器疾患	7.2	12.3	9.6				
骨折	9.7	22.5	24.0				
脊椎疾患	19.7	41.4	43.7				
四肢関節疾患	12.7	34.2	37.8				
パーキンソン症状	1.2	4.0	2.7				
悪性腫瘍	2.4	11.1	13.8				

65歳以上の高齢者の家族形態 (全国一般人口) (スモン)



主な介護者(スモン)



検診年度

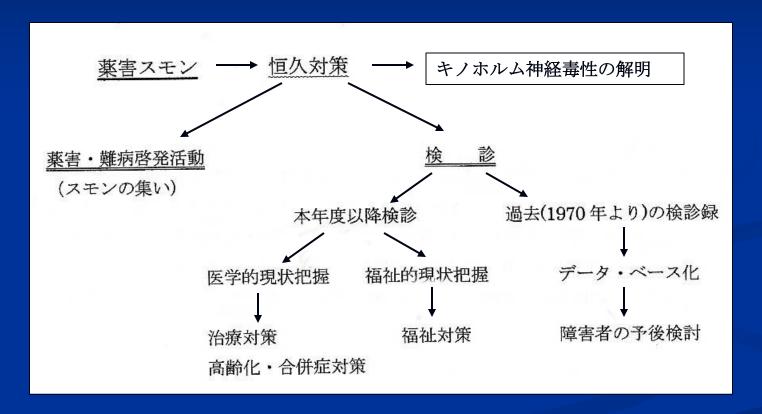
スモン調査研究班の意義

- 学際的な研究班組織によって、難病ではじめて原因を究明した。
- 難病に対する研究班組織構築の手本となった。
- 患者に対する恒久対策として、永年にわたり研究班が継続している。
- 30年近くにおよぶ縦断的データベース を持っている。

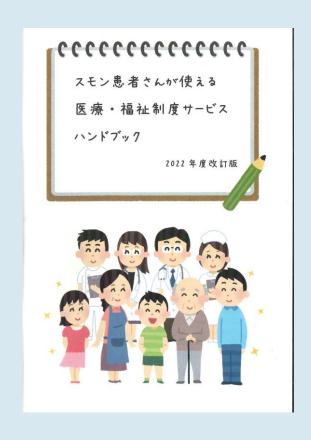
スモン調査研究班の流れ

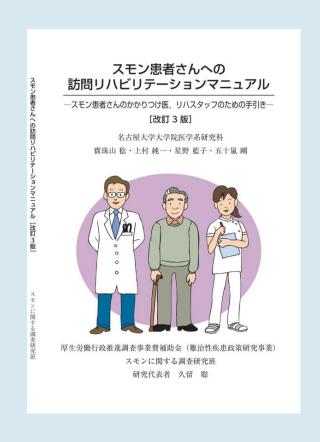
- 1964~66年度: 厚生省医療研究助成金 班長:前川孫二郎
- 1969~71年度: スモン調査研究協議会 班長:甲野禮作
- 1972~73年度:厚生省特定疾患調査研究班班長 :甲野禮作
- 1974~81年度: 同 班長:重松逸造
- 1982~87年度: 同 班長:祖父江逸郎
- 1988~92年度: 同 班長:安藤一也
- 1993~95年度: 同 班長:飯田光男
- 1996~2001年度: 同~厚生科学研究費補助金 特定疾患対策研究事業 班長:岩下 宏
- 2002年度~2007年度: 同~厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 班長:松岡幸彦
- 2008年度~2018年度: 班長:小長谷正明
- 2019年度~ : 班長:久留聡

研究計画 (流れ図)



- スモン検診、ワークショップ、研究報告会などの継続。
- 行政・患者会などとの連携。
- 患者さんの療養生活をより良いものにするために 医療制度 や社会福祉制度の解説、リハビリの指導・解説などの小冊子を 作成して患者さんに配布。





スモン患者さんのための 新型コロナウイルス対策



厚生労働行政推進調査事業費補助金 (難治性疾患政策研究事業) 「スモンに関する調査研究班」 研究代表者 **久留 聡**

目 次

第1章	新型コロナウイルス感染症の療養への影響
	国立病院機構鈴鹿病院 久留 聡 1
第2章	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について
	日本大学医学部神経内科 中嶋 秀人 5
第3章	新型コロナウイルス感染対策
	―外出自粛とリハビリテーション―
	名古屋大学大学院医学系研究科
	総合保健学専攻 實珠山 稔 17
第4章	コロナ禍におけるメンタルケア
	~よりよい生活のために~
	国立病院機構東尾張病院
	古村 健・西岡 和郎 26
第5章	コロナ禍を経たスモン患者さんご本人・ご家族に
	対する福祉・介護サービスの利用について
	日本福祉大学社会福祉学部 田中千枝子 38

スモンに関する情報の発信

厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患政策研究事業)

スモンに関する 調査研究班

Japanese

English

- ・ホーム
- ・ご挨拶・活動紹介
- ,疾患の解説と経緯
 - ・スモンの症状
 - 薬害スモンの経緯
 - · 恒久対策·検診
 - 医療制度サービス ハンドブック



NHO鈴鹿病院などのホームページに『スモンに関する調査研究班』 バナーがはりつけてあります。